

おけのこ

くじゅう連山のミヤマキリシマ

2018年 第1回 定例県議会

5年連続プラス (前年度比+7,139百万円)
一般会計総額: 6,169億4,500万円
積極型予算が成立

地方創生の成果を示す取組みを



二月二十七日に開会した二〇一八年第一回定例県議会は、三月二十九日にすべての議案採決が行われ、延べ三十一日間の会議日程を終えました。

県の新年度一般会計予算は、「復興前進」、災害からの復興と景気回復を念頭に、地方創生を強力に前進させるとし、対前年度比一・二%の伸び率となる積極型予算で編成されたところです。

新年度は、足下の災害への対応がまず第一です。災害からの早期復興を遂げるとともに、想定される大規模災害への備えも進めなければなりません。

県内人口推計では、大分市も含め昨年は全市町村で人口減少となりました。経済の活力を維持しつつ、地方創生の取組みの成果を現せるかが問われます。

以下、新年度の施策に対する私の所感を述べます。

■災害からの復興と、防災力の強化等

災害対策関連等の投資的経費は、前年度比プラス四・九%の約千三百六十五億円が計上され、平成十五年以降で最高の伸び率となりました。

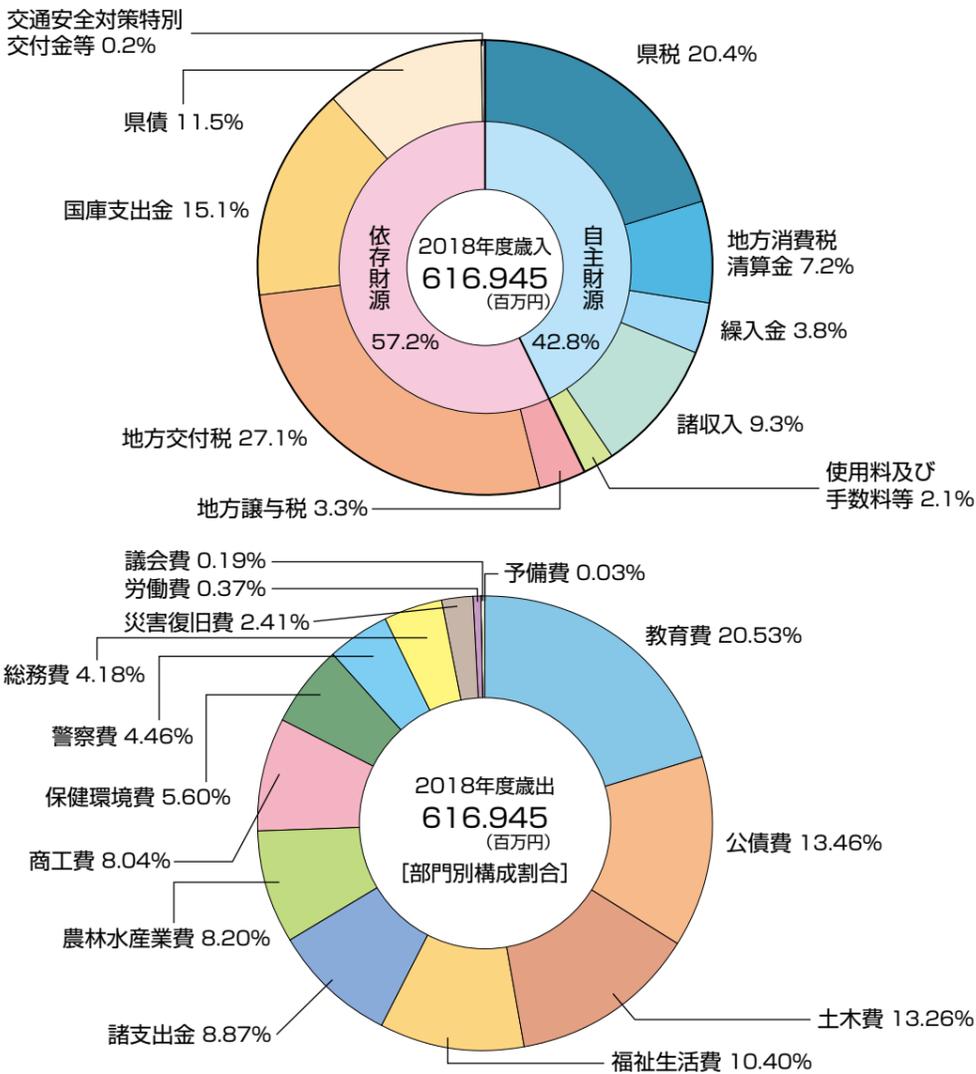
昨年の災害は、豪雨による被害が大きく、河床掘削や河川拡幅を行うほか、流木対策のため砂防ダムやスリットダム(流木の堰止め)の整備が進められます。

未だに避難生活が続く方も多く、被災者の生活再建の支援や、今年の作付に間に合うよう被災農地の復興が早期に必要です。

■子育て満足度日本一の実現

本県の合計特殊出生率は四年連続で上昇し、一・六五%と全国七位です。一方、保育や放課後児童クラブの需要は依然として高く、現状では十分に対応できていません。

2018年度大分県一般会計予算



■健康寿命日本一の実現

栄養・食生活面では、「うま塩プロジェクト」による減塩一日マイナス三グラムに加え、「まず野菜、もつと野菜プロジェクト」とする野菜摂取量一日三百五十グラムの取組みを強化するとしています。

運動面では、健康アプリ「おおいた歩得」が本格運用を迎えましたが、より一

施設整備はもちろん、保育士等の人材確保にも力を注がなければなりません。私が昨年の一般質問で取り上げた「婚活支援」については、県が「出会いサポートセンター」を新たに設置することが決まりました。結婚につながる良い「縁結び」となるよう、期待するところ です。

■障がい者雇用率日本一

昨年の雇用率は全国五位でした。企業への奨励金制度も創設されますが、障がい者雇用アドバイザーによる企業への働きかけの強化が重要です。

教育現場では、障がいのある生徒の就労を支える「高等特別支援学校」の設置に向けた基本設計に入ります。保護者や現場の声を十分にくみ入れ、設置していただきたいと思っています。

■農林水産業の構造改革

マーケット起点の商品づくりを基本に構造改革を加速し、生産性向上や高付加

層の利用者拡大と特典の充実が求められます。

■商工業の振興等

経営者が代替わりの時期を迎え、後継者の育成・確保は本県でも大きな課題となっています。

ICTなど技術革新への対応や持続的な経営をどう支援していくのか、商工団体との関わりが重要です。

価値化を図ることとしてい

水田の畑地化による高収益の園芸品目への転換を図り、販路拡大や海外市場の開拓が進められます。

昨年は、豊後牛が種牛日本一となったところで、水産業の養殖も好調に推移しています。いずれにしても、都市圏の大消費地や海外市場でどれだけ伸ばせるかが勝負どころです。



■国民文化祭等の成功とラグビーワールドカップに向けた準備

本年秋には国民文化祭・全国障害者芸術文化祭が「おおいた大茶会」をテーマに開催されます。誰もが喜び、楽しめる県民総参加のお祭りとして成功させなければなりません。

そして来年の秋は、ラグビーワールドカップが開催されます。本年六月九日には、その前哨戦として日本代表とイタリア代表とのテストマッチが行われます。

大分県では、飲食店での多言語表示や土産品等でのキャッシュレス対応がまだ十分でなく、外国人客の受け入れ態勢の充実が求められます。

観光関連事業者に対する県や市町村からの支援や働きかけの強化が必要です。

一方、ドローンの活用には大きな予算も投じており、大分県版第四次産業革命の具体化も問われます。

また、観光部門においては、外国人宿泊者の伸びが好調で、これから続くビッグイベントを機会とし、より一層の誘客と観光産業の活性化が求められます。

2018年第一回 定例県議会 一般質問・答弁

詳細はHPから [大分県議会](#) [検索](#)

三月十四日、本年第一回定例県議会にて、私は次の八項目に関する一般質問を行いました。

- 〈質問項目〉
- 一、海外戦略について
 - ①次期海外戦略
 - ②インバウンドへの情報発信
 - ③瀬戸内航路
 - 二、大友宗麟公とキリシタン文化について
 - ①大友宗麟公の大河ドラマ化
 - ②豊後のキリシタン文化
 - 三、大分市中心部の交通渋滞対策について
 - 四、「ゲーム障害」について
 - 五、「ジビエ」利用の普及拡大について

一、次期海外戦略について

(木田) 人口減少社会に入り、本県も含む九州経済圏の国内マーケットが縮小していくなか、商品やサービスの付加価値の拡大を図り、企業収益を増加させるためには、成長するアジアをはじめとした海外のマーケットへの輸出強化など大分のモノを県外はもとより、国外の方に販売、消費してもらおう地産外商(消)の取組が必要です。

一方、政府発表の速報によると、昨年一年間の訪日外国人旅行者数は二八六〇万人を超え、訪日外国人旅行消費額については、年間で四兆円を超えたとのことです。



今後、外国人旅行者の「安心・活力・発展プラン2015」の政策・施策をベースに、現行戦略の四つの柱に基づく取組を更に加速させたいと考えています。また、ラグビーワールドカップ開催のレガシーなど、県内の新たな要素についても考慮していく必要があります。

こうしたことから、次期戦略の主なポイントとしては、農林水産物や加工品の一層の輸出拡大、留学生O・Bネットワークを活用した海外ビジネス展開企業の増加、アジアに加え欧米・大洋州からの誘客を強化すること、グローバル人材育成の充実などがあります。

今後とも、変化の激しい国際情勢を注視しながら、海外の成長を取り込みつつ、ともに発展する大分県づくりを進めます。

さて、県の策定している「大分県海外戦略」は来年度が最終年度となります。戦略を策定するのは行政ですが、民間サイドの理解と実践がなければ、前に進みづらい状況もあるかと思えます。

海外戦略に対する現段階の達成状況を踏まえ、次期海外戦略の策定に対する考えと、今後の推進に向けた知事の考えをお聞かせください。

(答弁：知事) 次期海外戦略の策定にあたっては、海外との人や物の交流が変盛んになった実績を踏まえながら、海外情勢を巡る環境変化も見定めま

Oita Prefectural Assembly
大分県議会 インターネット中継

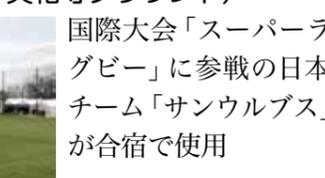
県議会ホームページにて一般質問の中継録画を視聴できます

紙面の都合上、質問と答弁のすべてを紹介できず、申し訳ございません。なお、県議会HPにて過去分も含め、一般質問の全録画を視聴できます。
(<http://www.oita-pref.stream.jfit.co.jp/>)
→「議員から選ぶ」→「木田昇」を選択

(木田の提案) とりわけ観光産業は二十一世紀最大の産業と言われる、裾野の広く付加価値の高い産業の展開が期待できる分野です。他県に遅れることなく、インバウンドのある海外戦略の推進を求めます。

最近の動き

- 1月**
- ▷ 新年互礼会、新春懇談会、消防出初式
 - ▷ 土木建築委員会県内所管事務調査(大分川ダム、津久見)
 - ▷ 庄の原佐野線(元町・下郡工区)開通式典
10年の歳月を経て待望の「宗麟大橋」も開通
 - ▷ 大分大学大学院経済学研究科特別講座
 - ▷ NPO法人大友氏顕彰会新年の集い
 - ▷ ラグビーW杯大分開催協議会公認チームキャンプ地応募自治体調査(別府市・実相寺グラウンド)
 - ▷ エンジン01文化戦略会議 in 大分
 - ▷ 大分大学大学院イノベティブ経済セミナー
 - ▷ 「米軍基地の整理・縮小」と「日米地位協定の抜本的見直し」を実現する日出生台集会(玖珠町)
- 2月**
- ▷ 県立芸術文化短期大学美術科卒業・修了制作展
 - ▷ 自治研センター学習会
 - ▷ 自治体向けICT推進セミナー大分
 - ▷ 大分川ダム湛水式
 - ▷ 第30回県警ふれあいコンサート
- 3月**
- ▷ 連合大分春季生活闘争総決起集会
 - ▷ 県議会政策勉強会
 - ▷ 春闘街頭宣伝行動(トキ八前交差点)
 - ▷ 県議会スポーツ議員連盟総会
 - ▷ 県議会革新的技術活用特別委員会
 - ▷ 県議会ラグビーW杯大分開催協議会
 - ▷ 2018年第1回定例県議会閉会



防災士 木田昇の
防災メモ

— 大切な教訓「釜石の奇跡」 —

東日本大震災から7年が経ちました。岩手県の釜石市内の小中学校では、あの惨事の8年前から、片田敏孝(現：東京大学情報学環特任教授)さんの指導による地震避難訓練が繰り返し実施されていました。

そして、2011年3月11日の地震発生後、釜石市の全児童・生徒計約3千人は即座に避難を開始し、生存率99.8%という結果につながりました。これが「釜石の奇跡」と呼ばれ、今日まで語り継がれています。

先日、その片田先生のお話を伺う機会がありました。その教えは、「津波避難の三原則」(①想定にとらわれない、②最善を尽くせ、③率先避難者たれ)です。

災害は人の想像を超えた規模で起こり得るもの。「ここなら安全」とたかをくくらず逃げられるところまで逃げる。誰かが逃げ始めないと周りの人も逃げようとならないので、まず自分が逃げる。忘れてはならない教訓です。

公式ホームページ&ブログ

木田昇の議会・政務活動を随時更新中。

“大分県議会議員 木田昇”で検索
[<http://oita-kida.net/>]

*県民クラブHPはコチラ
(<http://www.oct-net.ne.jp/shakai-1/>)

竹の子記

来年の秋、世界三大スポーツ大会の一つ、「ラグビーW杯」が日本で開催され、大分では予選三試合、準々決勝二試合の計五試合が行われます。県議会のラグビーW杯協議会のメンバーも務めており、昨年十二月の県議会での決定により、大分での試合に出場するオーストラリア、フィジー、ニュージーランドへ派遣されたところ。▼詳細は県議会のHPに掲載されている報告書をご覧ください。と思いましたが、いざいざと思いつくのが、ラグビーW杯を日本で開催したいという思いが、日本を訪問したいという思いのようでした。▼先般の知事記者会見によると、W杯開催経費は当初見込み(十五億円)の三倍以上となる約四十九億円と発表されました。対する経済波及効果は二五三億円と試算されています(税収がどれだけ増えるかは不明です)。

▼今議会の一般質問でも発言しましたが、W杯が単なる一過性のものに終わってはなりません。大会レガシー(遺産)が、目に見えるものとなって県経済の活性化や県民所得の向上へとつながるかが問われます。▼すでにW杯開催の経験のある豪州やNZは、大会レガシーが息づく街で賑わいに溢れていました。両国とも長期休暇を毎年とるのが当たり前前のように、日本の「働き方改革」とは雲泥の差があるな、と感じました。